

平成23年度相双地域医療体験研修

～被災地の医療と向き合う～

実施報告

期日：平成24年3月1日（木）～2日（金）



福島県相双保健福祉事務所

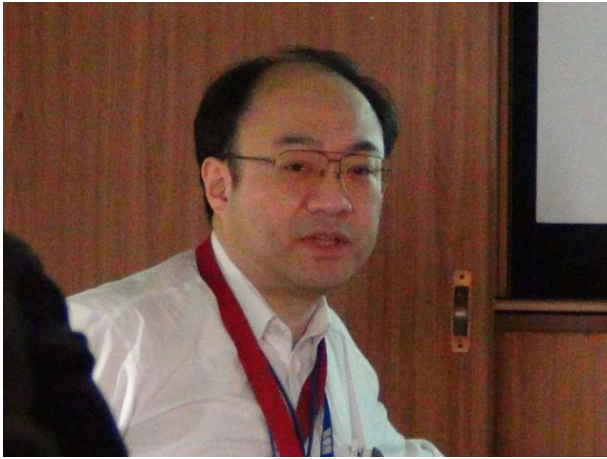
研修日程表

月／日	時間	内容	場所
3 / 1 (木)	10 : 30 ~ 12 : 00	オリエンテーション (福島県立医大)	10 : 00 福島県 10 : 30 医大
	12 : 00 ~ 14 : 00	昼食・移動	
	14 : 00 ~ 15 : 30	相馬市の精神科クリニックなごみ訪問 精神科医と看護師の講話	
	15 : 30 ~ 16 : 30	地元観光農園訪問 沿岸部被災状況見学	
	16 : 30 ~ 18 : 00	公立相馬総合病院視察 院長等及び保健所長の講話	
	18 : 00 ~ 18 : 30	移動	
	18 : 30 ~ 21 : 00	医療従事者との懇談会・夕食	相馬市に宿泊
3 / 2 (金)	7 : 30 ~ 8 : 30	朝食	
	8 : 30 ~ 9 : 00	移動	
	9 : 00 ~ 12 : 00	南相馬市社会福祉協議会 保健師仮設住宅巡回同行 仮設住宅集会場での住民との交流	
	12 : 00 ~ 13 : 00	昼食	
	13 : 00 ~ 15 : 00	移動、解散	15 : 00 福島駅 15 : 30 医大



宿泊した相馬市の「HOTEL ふたばや」と、
移動に用いた貸し切りバス。

オリエンテーション（福島県立医大）



福島県立医科大学大谷先生による、福島県及び相双地域の医療の概況や今後の展望などについて説明を拝聴しました。



研修に参加する学生は、大谷先生の説明を真剣に聞いていました。

メンタルクリニックなごみ・相馬広域こころのケアセンターなごみ (NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会) 訪問



震災後の相馬地区の精神医療を支えるこころのケアセンターなごみの仕事について、事例を交えながらの講話を頂きました。

左：新垣メンタルクリニックなごみ院長
右：米倉センター長



学生は、テーブルに新垣院長と米倉センター長と向かい合う形で着席し、講話を拝聴しました。

沿岸部被災状況見学（観光農園）



いちご狩りやいちご直売を行っている和田観光苺組合を訪問しました。松川浦まで直線距離で500メートルほど離れた場所にも津波は襲来し、直売所室内が完全に水没したほどです。そのような場所でも、営業を再開しています。



実際にいちご狩りを体験しました。いちご狩り受付所の職員の案内で、別な場所にあるビニールハウスに移動し、いちごを食べました。

沿岸部被災状況見学（津波被災地）



時間の関係から車内からの視察となりましたが、相馬市松川浦近くの尾浜地区から原釜地区を走行中の車内から視察しました。



瓦礫は片付いたものの、それとともに、ここにあった生活の跡形も一緒になくなってしまった沿岸部の様子を目の当たりにし、移動中終始和やかに談笑していた車内も静まりかえりました。

公立相馬総合病院訪問

熊院長等及び笹原相双保健所長の講話を拝聴しました。



熊院長から、震災直後の公立相馬病院の活動について講演を頂きました。



笹原相双保健所長から、震災直後の相双保健所の活動、震災後の管内の医療状況について講演を頂きました。

医療従事者との懇談会・夕食

相馬地域の医療従事者と学生が、夕食をともにしながら懇談しました。



柏村相馬郡医師会長から、震災後の医師会の活動状況などについてお話を頂きました。



地域医療についてはもとより、医療従事者それぞれの仕事について、学生の今後の目標や目指す医療の領域などについて、学生と医療従事者との懇談は、時間いっぱいまで続きました。

仮設住宅集会場での住民との交流

南相馬市社会福祉協議会の仮設住宅集会場でのサロン活動に、ボランティアとして参加しました。白衣を着て受付を済ませた後、二班に分かれて、仮設住宅の集会場を訪問しました。



説明を受け、
受付する学生。

こちらの班は、仮設住宅の集会場でのサロンに参加。血圧を測った後、住民の方々と折り紙をするなどふれあいました。



血圧を測定する学生

住民の方々と談笑しながら、折り紙に興じる。

こちらの班は、仮設住宅の集会場で血圧を測った後、住民の方々とともにストレッチに興じました。



集会場に集まった住民



血圧を測定する学生



住民の方々とともに、ストレッチ。



参加者感想

今回参加した5名の学生から、それぞれの感想を頂きました。

- ◆ 今回の研修で初めて相双地域を訪れ、今までメディアを通してしか伝わってこなかった震災の傷跡を生目の目で見て知り、震災当時の現場の苦労や努力、懸命な思いに触れることができました。震災を乗り越えるためにどれだけ地域の人々が必死で闘ってきたか気づかされました。様々な医療者、地域住民からお話を伺え、地域医療についてじっくり考える機会を与えてもらったのは、とても貴重な体験でした。
- ◆ 初めて地域医療体験研修に参加させていただき、地域医療の現状と東日本大震災に関するお話を聞くこともできました。原発事故によって相双地区の精神病院が閉鎖されてしまいましたがそこに新たにこころのケアセンターなごみがつくられ、人手が足りないながらもアウトリーチ事業を一生懸命進めていくセンター長さん方や、沖縄から通われているクリニックなごみ院長の新垣さんのお話を聞き、地域に自分をなげうって仕事をされる姿がすてきだと思いました。また、仮設住宅でのお茶会に参加させていただき、住民の方々と楽しい時間を過ごしながらも、皆さんは笑顔の裏では多くの不安や悲しみを抱えていらっしゃると思うと、胸がきつく締め付けられる気分になりました。大学という枠の外の現場に触れることができ、自分の見識を広げることができました。
- ◆ 過疎地域における地域医療について、かねてから関心はあったものの、学ぶ機会も少なく、おぼろげな感覚でしか捉えていませんでした。しかし、今回の研修を通して地域の中核病院と診療所が機能を発揮して地域の医療を支えていることを知ることができました。震災や原発災害に際しての対応について直接お話を伺うことができ、良い経験になりました。短い間でしたが、とても充実した研修でありとても満足のいく企画でした。
- ◆ 震災後の相馬市の精神医療の崩壊について初めて知りました。私は精神科を志望しているのでとても興味深いものでした。入院が今までのようにはできなくなり、今までとは異なる新しい医療モデルを形成しようとしているのだと感じました。
- ◆ 充実した2日間を過ごさせていただきました。原発の問題で怖いイメージがある相双地区でしたが、皆さん普通に生活していました。福島で生活していない人たちが、食べ物のことを心配するのは馬鹿馬鹿しいなと思いました。震災後、精神科医療をつないでいこうとアウトリーチ事業をがんばっていて、本当に素晴らしいと思いました。是非日本一健康な県になって欲しいです。福島の方に大歓迎され、うれしかったです。福島で研修をするとこれくらい「アツク」指導されるのだろうなって思います。将来お世話になることがあったらよろしくお願いします。



参加学生（前列）と、医大先生（後列）。

平成23年度

平成24年3月

地域医療体験研修（冬季）実施報告

編集・発行

福島県相双保健福祉事務所 総務企画部総務企画課

〒975-0031 南相馬市原町区錦町1丁目30番地

電話 0244-26-1326

FAX 0244-26-1332

<http://www.pref.fukushima.jp/sosohofuku/>

E-mail: sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.jp
